ゆめみがさきの

ふしぎにゃトンネル

さく／まさ　え／あず

わしを　みたことが　にゃいって？

ゆめみがさき　どうぶつこうえんの
てらに　すんでおる　ずーっと　ずーっと
そのまた　ずーっと　むかしから

おいでにゃさい
ささ　おいでにゃさい

むこうに　きの　トンネルが　みえるじゃろう
じつは　ふるい　じだいに　つながる
ふしぎにゃ　トンネルなんじゃ

ささ　わしに　ついて　おいでにゃさい
いまから　おまえさんに
おもしろい　ものを　みせてあげよう

おや　もくもく　もくもく
けむりが　でてきたぞぉ

あれは　いつのことじゃったか
てらの　おしょうさんが
まだ　こどもの　ころじゃった

このあたりは　たくさんの　こうじょうがあって
えんとつから　まっかにゃ　けむりが　でておったのぉ

ごほっ　ごほっ　ごほん
にゃんだか　けむたいにゃあ

ほれほれ
とおくから　おとが　きこえるじゃろ
がたんごとん　がたんごとん　ごおぉぉ

トロッコれっしゃが　とおるぞぉ
おっとっと　じめんが　ゆれるから
おまえさんも　きをつけるのじゃ

ここは　もっと　もっと
おおきにゃ　やまじゃった
やまを　けずって
そのつちを　トロッコで　はこんで
ぬまを　うめたてたんじゃ

おっと
にゃんだが　あしが　つめたいぞぉ
ちゃぷ　ちゃぷ　ざっぶーん

おぉぉ　そうじゃそうじゃ　あのときは
ずいぶん　えらいめに　あったにゃあ・・・・・

たまがわは　あばれがわと　よばれ
しょっちゅう　かわが　あふれておった
あのときは
きも　いえも　こうじょうも
にゃがされてしまうほど
おおきな　こうずいじゃった

わしは　みずが　にがてじゃから
おぼれるかと　おもったわい

おやおや
ふるくからのゆうじんが　あそびにきたようじゃ
けろっ　けろけろっ　けろっ

それより　もっと　むかしは・・・・・・・
みわたすかぎり　たんぼじゃった

なつはみどり
あきはきんいろの　じゅうたんが　ひろがって
それはそれは
うつくしい　けしきじゃった

あのころは　かえるや　とりと
くらくにゃるまで　あそんだものじゃ
にゃつかしいのぉ

ほほう
あっちに　ちょうちょが　まいこんできたぞぉ
はなの　いいかおりも　するにゃあ

ちょうちょに　ついていったら
１６００ねんも　まえの
せかいに　やってきたぞぉ
あそこに　めずらしい
かたちの　やまが　みえるじゃろう
あれは　やまじゃなくて
おおきな　おはかじゃ
たくさんの　ひとが　つちを　はこんで
にゃんねんも　にゃんねんも
かかって　つくったんじゃ

やまに　すむ　かみさまが
なくなった　ひとを
てんごくに　みちびいてくれると
みんにゃ　しんじておった

このおはかは　こふんとよばれ
いまも　７つのこっておる

・・・ああ　これは　うみの　かおりじゃなぁ
ざざー　ざざー　ざざーん

もっと　もっと　おおむかし

いまから６０００ねんまえ
じょうもんと　よばれるじだい
ここは　うみに　かこまれた
しまじゃった
どうじゃ　おどろいたじゃろう
きしゃも　じどうしゃも
にゃかったから　ふねで　しおや
きを　はこんだのじゃ

みなとは　とおくから
やってきた　ひとたちで
すいぶん　にぎわったにゃあ
いまでも　ここでくらしていた
ひとが　たべた　かいの　からが
でてくるんじゃ

ひゅう　ひゅう　ひゅるるる
トンネルの　でぐちが
みえてきたぞぉ

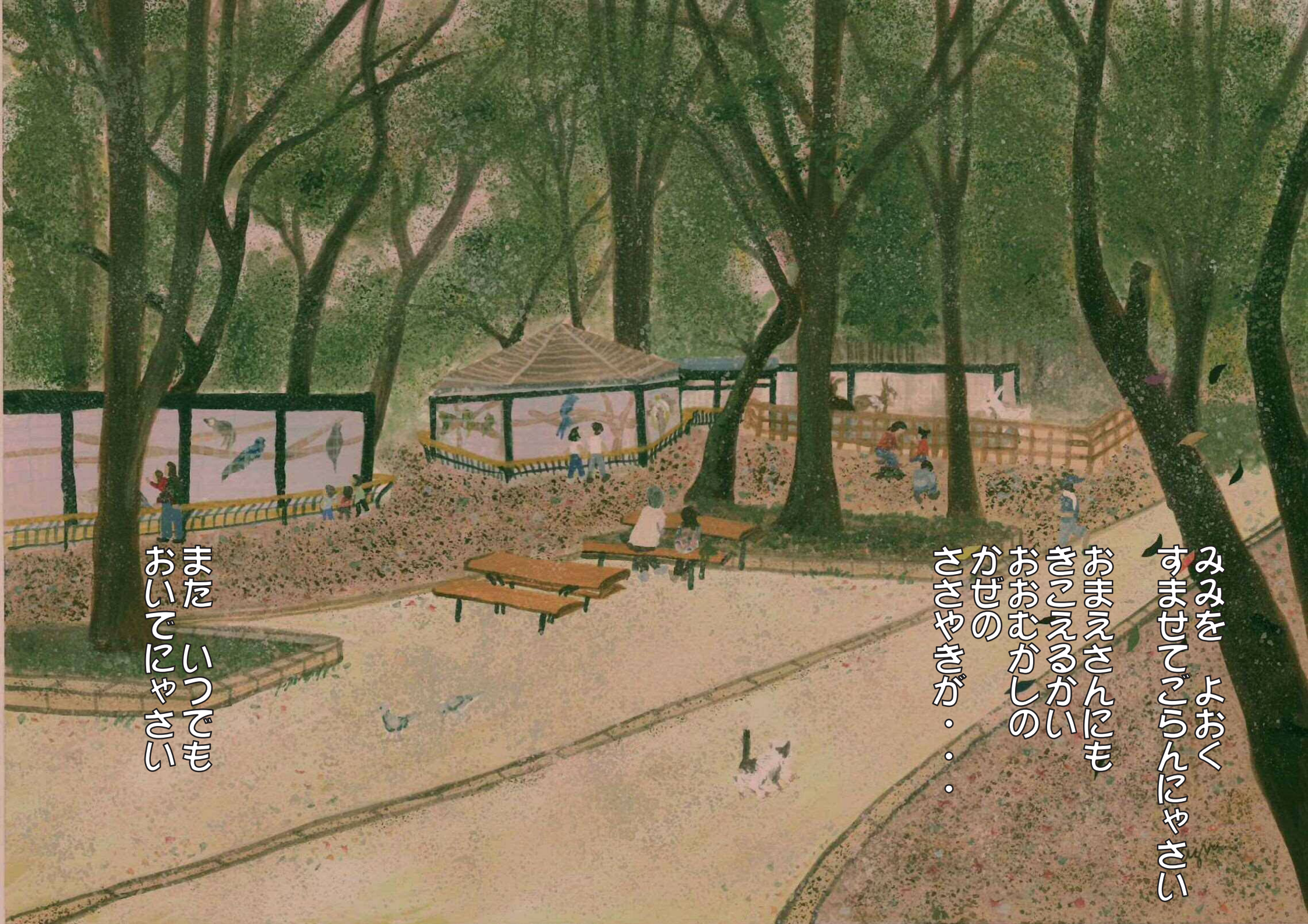
おいでにゃさい　おいでにゃさい
ささ　おいでにゃさい

さいごに　おまえさんを
とっておきの　ばしょに　あんないしてあげよう

ここが　どこだか　わかるかにゃ
おまえさんが　よく　しってる　ばしょ
ふじみデッキじゃよ

ほれほれ　ながめてごらんにゃさい
ここから　あたりいちめん
むかしは　おうなばらじゃった
どこまでもつづく　かなたまで
すいへいせんの
キラキラと　かがやいておったわい
ほんに　さまがわりしたにょぉ

どうじゃ
おもしろかったじゃろう
いつも　あそんでいる
ゆめみがさきには
こんにゃ　れきしが
あったんじゃよ



みみを　よおく
すませてごらんにゃさい

おまえさんにも
きこえるかい
おおむかしの
かぜの
ささやきが・・・

また　いつでも
おいでにゃさい

ゆめみがさきの
ふしぎにゃトンネル

2019（平成31）年2月　初版第1刷発行

作／まさ　　絵／あず

NPO法人はたらくらす絵本制作委員会
ディレクター／石渡裕美、平野良美
企画・取材・構成／安井雅子（まさ出版）
編集協力／izumi
デザイン／松尾由紀
監修／市川勝一（日吉郷土史会）
印刷／オールウェイズ（PrintValue）

発行／川崎市幸区役所
平成30年度　幸区提案型協働推進事業

Epilogue

幸区の歴史は、縄文時代までさかのぼります。夢見ヶ崎動物公園がある加瀬山は、縄文時代、海に浮かぶ島でした。食料や燃料の輸送手段が限られていた時代、海に囲まれた好立地を生かして水運業で栄えました。

古墳時代には、有力な豪族が現れ古墳が作られました。代表的な古墳は、西暦350年ごろに作られた加瀬白山古墳。全長87m、高さ10mと、関東では最大級の規模と言われています。

江戸時代には、稲作が盛んにおこなわれ、見渡すかぎりの広大な田園が広がっていました。多摩川の豊富な水源に恩恵を受ける一方、何度も洪水を繰り返し、「暴れ川」とも呼ばれていたそうです。

緑豊かな地から一転、明治時代には、横浜精糖※1や東京電気※2が次々に操業を開始。工業都市として発展します。しかし、1907（明治40）年、1910（明治43）年と立て続けに多摩川の大洪水に見舞われ、工場が大きな被害にあったため撤退の危機もありました。
そこで、加瀬山を崩して南河原南部※3の土地をかさ上げし、工場用地を整備。白山古墳や昔の人たちがゴミ捨て場として使っていた貝塚も切り崩され、現在はありません。

そして、高層マンションや商業施設の建設ラッシュが続く現代へ・・・・・・。夢見ヶ崎動物公園は1974（昭和49）年に開園しました。加瀬山を中心に、時代とともに大きく変わっていく風景をモチーフに、絵本のストーリーを考えました。

※1 後の明治製糖 ※2 現在の東芝 ※3 現在のラゾーナ川崎のあたり